



Japan
Display
Inc.
Group

2015年度 第2四半期 決算説明会

2015年11月9日

株式会社 ジャパンディスプレイ

1. 2015年度第2四半期実績及び第3四半期ガイダンス

2. 市場動向及びJDIの施策

3. 経営改革の進捗

【ご注意】

- ・ 本資料に記載の減価償却費は、のれん償却費及び営業外減価償却費を含みます。
- ・ 本資料に記載の研究開発費は、売上原価及び販売管理費に含まれる金額の合計です。

2015年度第2四半期実績及び 第3四半期ガイダンス

執行役員 CFO
吉田 恵一

2015年度 第2四半期 トピックス

- 売上高は、大口顧客及び中国顧客向けが好調に推移し、全体では前年同期比63%増の2,617億円とほぼ予想通りに着地
- 営業利益は、固定費の増加があったものの、出荷増及び原価低減効果等により、前年同期76億円の赤字から83億円に黒字転換
- 市場では引き続きスマホ向けディスプレイの価格低下が見られたが、当社では付加価値の高いPixel Eyes™の販売拡大により、その影響を最小限に留めた
- 3Q15は顧客地域により売上高の増減に差が生じるが、全体では増加。経営改革をスピーディに実行し、収益改善を目指す

(億円)

	売上高	営業利益	減価償却費	研究開発費	為替レート (円/US\$)
2Q-FY15 (実)	2,617	83	202	65	122.3
2Q-FY15 (予)	2,600	80	218	64	120.0
2Q-FY14 (実)	1,604	▲76	175	40	103.8

2015年度 第2四半期 連結業績

(億円)

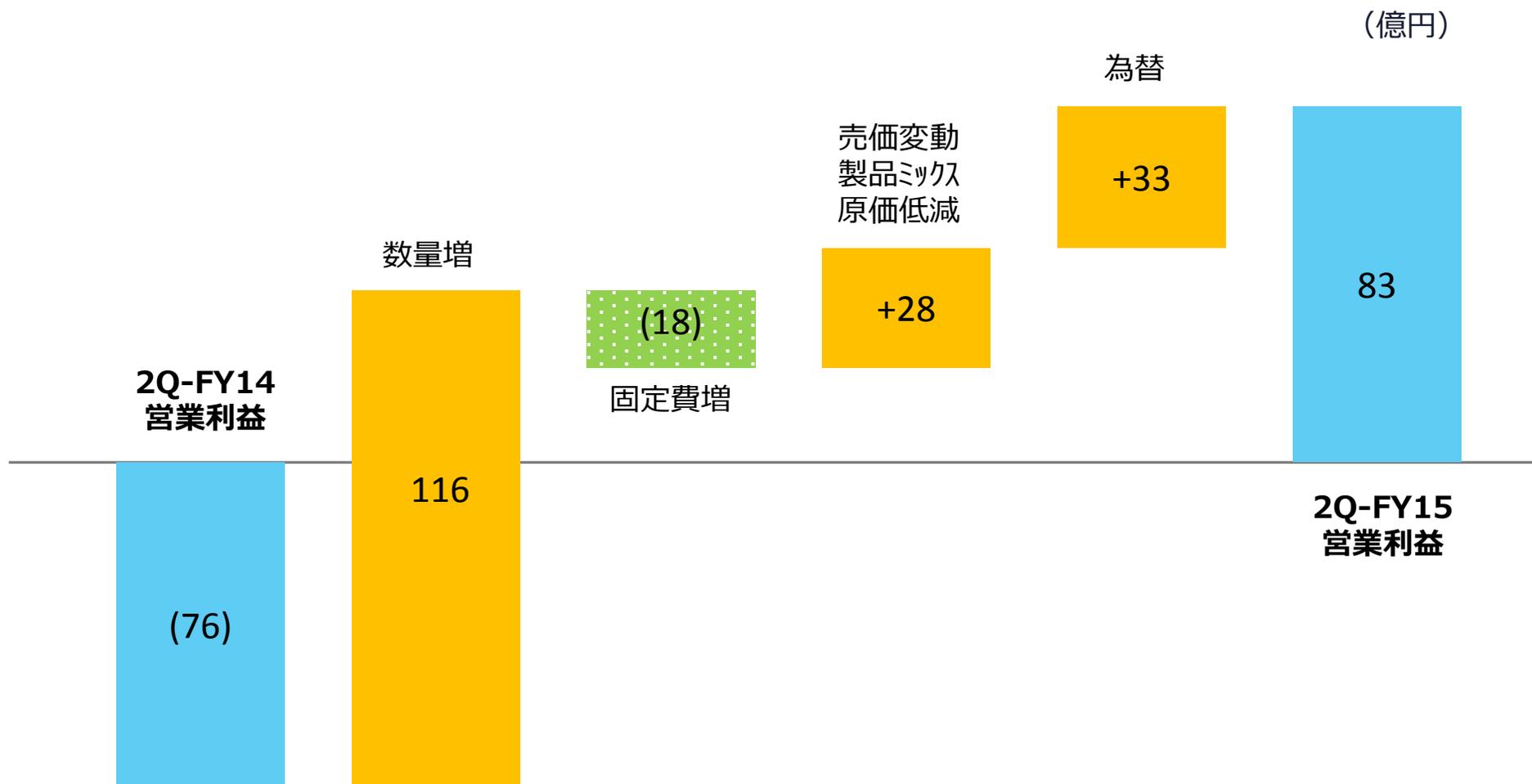
	Q2-FY15	Q2-FY14	YoY増減	Q1-FY15	QoQ増減
売上高	2,617	1,604	+1,013	2,461	+156
売上原価	2,371	1,556	+815	2,283	+88
売上総利益	246	48	+198	179	+68
	9.4%	3.0%		7.3%	
販売費及び一般管理費	163	124	+39	156	+7
営業利益	83	▲76	+159	22	+61
	3.2%	-4.7%		0.9%	
営業外損益	▲66	20	▲86	▲24	▲42
経常利益	18	▲56	+74	▲1	+19
	0.7%	-3.5%		0.0%	
特別損益	0	▲21	+21	0	+0
税引前当期純利益	18	▲77	+95	▲1	+19
	0.7%	-4.8%		0.0%	
当期純利益	1	▲110	+111	▲5	+6
	0.0%	-1.3%		0.0%	
EBITDA	284	98	+186	225	+59
	10.8%	6.1%		9.1%	

2015年度上半期 連結業績

(億円)

	1 H-FY15	2 H-FY14	YoY増減	
売上高	5,079	2,856	+ 2,223	+77.8%
売上原価	4,654	2,816	+ 1,837	
売上総利益	425	39	+ 386	+980.8%
	8.4%	1.4%	17.4%	
販売費及び一般管理費	319	242	+ 77	
営業利益	106	▲ 203	+ 309	-
	2.1%	-7.1%	13.9%	
営業外損益	▲ 89	▲ 22	▲ 67	
経常利益	17	▲ 225	+ 241	-
	0.3%	-7.9%	10.9%	
特別損益	0	▲ 21	+ 21	
税引前当期純利益	17	▲ 246	+ 263	-
	0.3%	-8.6%	11.8%	
当期純利益	▲ 3	▲ 278	+ 275	-
	-0.1%	-9.7%	12.4%	
EBITDA	508	142	+ 367	+258.6%
	10.0%	5.0%	16.5%	

第2四半期 営業利益増減要因 (前年同期比)



連結貸借対照表

(億円)

	9/2015	3/2015	9/2014
現金及び預金	518	946	712
売掛金	1,841	1,441	1,249
未収入金	1,173	628	483
在庫	1,149	1,134	1,030
その他	224	218	294
流動資産合計	4,905	4,367	3,769
固定資産合計	4,122	3,949	3,983
資産合計	9,027	8,316	7,752
買掛金	2,429	1,971	1,476
有利子負債	847	835	963
前受金	831	653	561
その他負債	904	831	944
負債合計	5,012	4,290	3,944
純資産合計	4,015	4,026	3,807
自己資本比率	44.3%	48.2%	49.0%
ネット有利子負債	329	-111	251
商品及び製品	10	12	20
仕掛品	19	21	26
原材料及び貯蔵品	10	11	12
在庫保有日数 (日)	40	44	58

連結キャッシュフロー計算書

(億円)

	1H-FY15	1H-FY14	増減
税引前当期純利益	17	▲ 246	263
減価償却費	405	346	59
運転資金※ 1	▲ 529	▲ 170	▲ 359
前受金	178	▲ 107	285
営業キャッシュフロー	131	▲ 146	277
固定資産の取得による支出	▲ 594	▲ 482	▲ 112
投資キャッシュフロー	▲ 574	▲ 476	▲ 98
財務キャッシュフロー	13	▲ 96	109
期末現預金残高	518	712	▲ 194
フリーキャッシュフロー ※ 2	▲ 443	▲ 622	179

フリーキャッシュフローは上期赤字も、下期には運転資金の改善等により黒字化を見込み、通期でも黒字を目指す

※1 運転資金 = 売上債権 + たな卸資産 + 仕入債務 + 未収入金

※2 フリーキャッシュフロー = 営業キャッシュフロー + 投資キャッシュフロー

3Q-FY2015 業績予想

3Q-FY15
予想

- 売上高：中国・アジア顧客向け販売が前四半期比減少見込みも、最大顧客向け販売の好調により、初の3,000億円台となる見込み
- 営業利益：固定費の増加等により前年同期を若干下回るものの、前四半期を47億円上回る130億円を見込む

(億円)

	売上高	営業利益	減価償却費	研究開発費	為替レート (円/US\$)
3Q-FY15 (予)	3,100	130	214	63	120.0
2Q-FY15 (実)	2,617	83	202	65	122.3
3Q-FY14 (実)	2,511	147	174	33	114.4

※為替変動による営業利益インパクトは、1円変動に対し四半期で約3億円

- リスク：中国顧客向け販売の更なる落ち込み

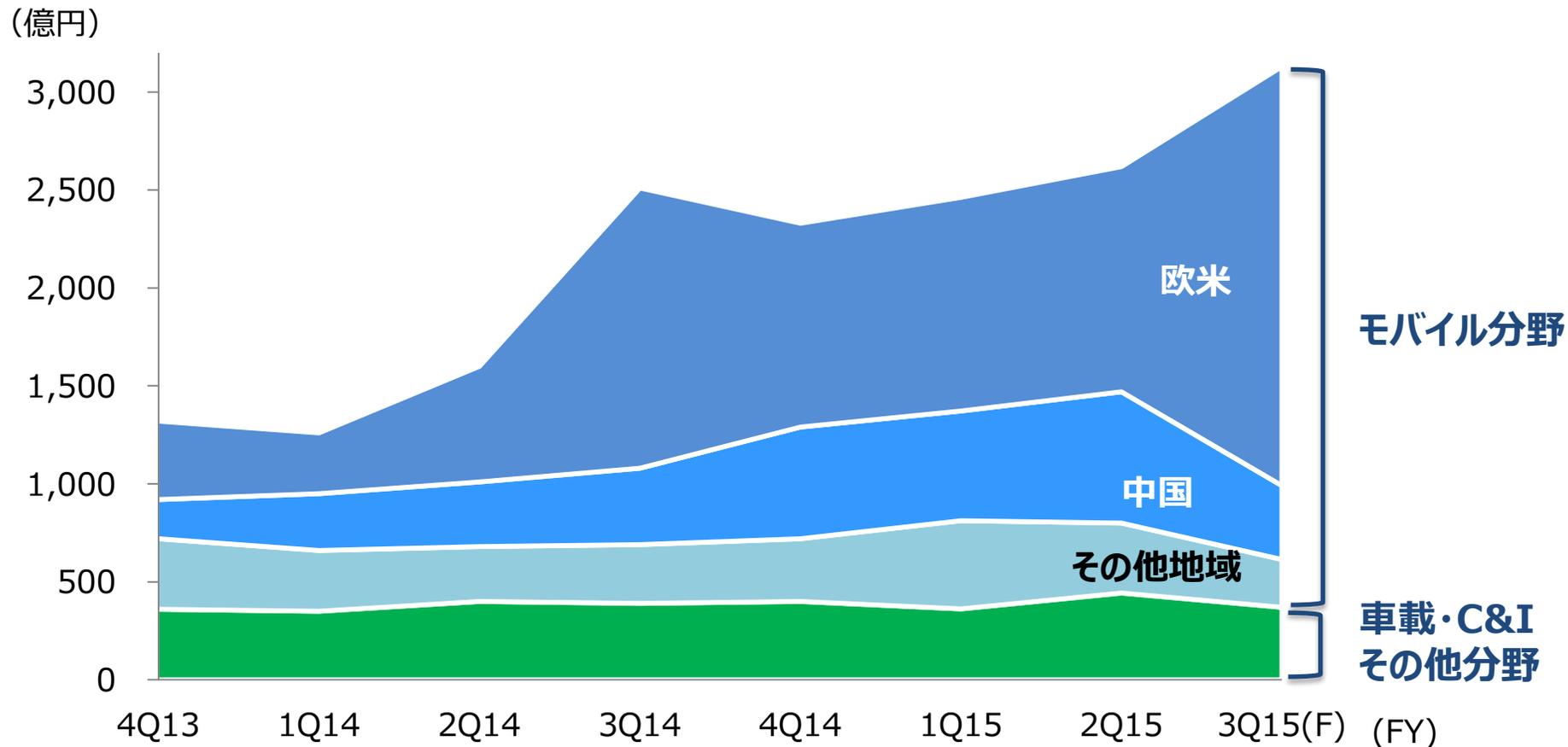
FY15
費用等
見込み

- 減価償却費： 850億円 (前年度比 +141億円)
- 研究開発費： 260億円 (" +100億円)
- 設備投資額： 2,100億円 (受取金での充当分を含む)

市場動向及びJDIの施策

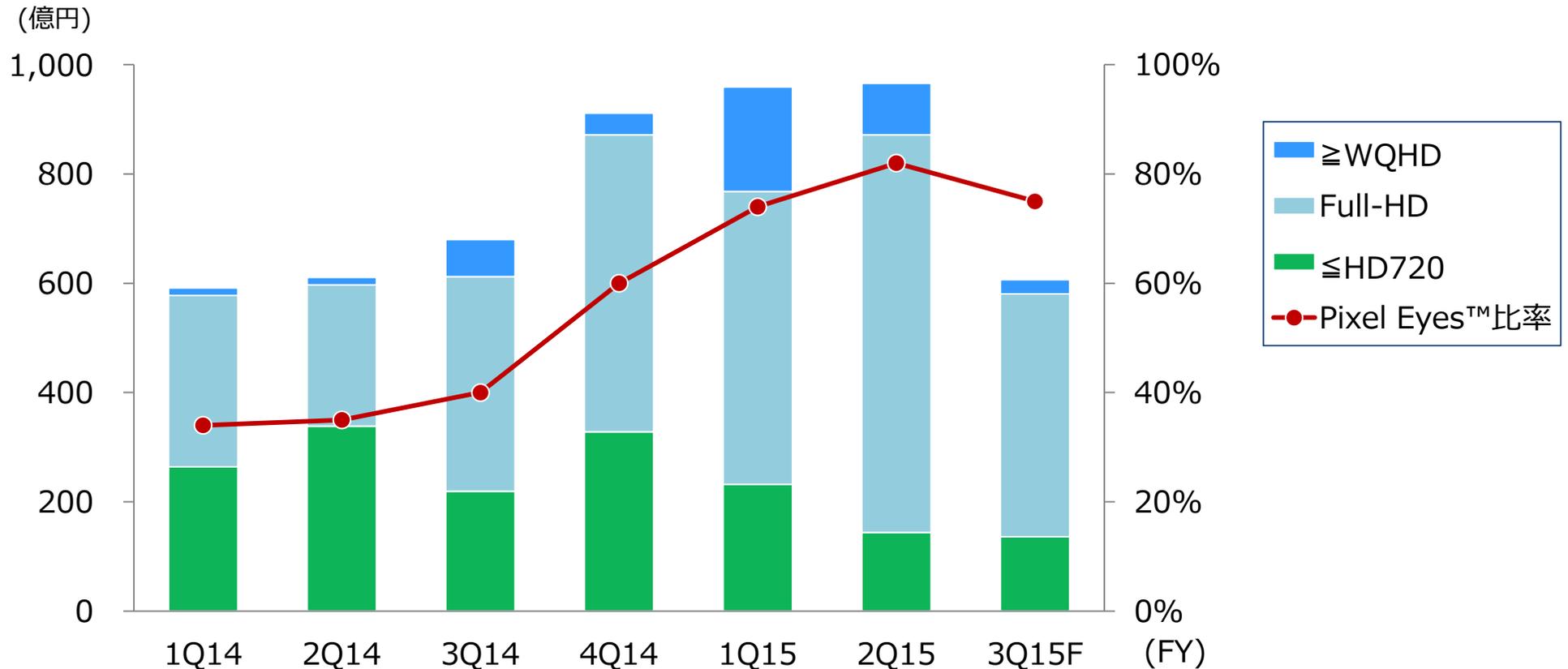
代表取締役社長 兼 COO
有賀 修二

製品分野及び顧客地域別四半期売上高推移



- 3Q-FY15の中国・その他地域向け売上高は、市場競争の激化により、一時的に落ち込む見込み
- 一方、欧米地域向け売上高は、中国・その他地域向けの落ち込み分を上回る増加となる見通し

中国・アジア顧客向けスマートフォンディスプレイ売上高推移



- 2Q15はWQHD製品の出荷減をFull-HDでカバー
3Q15は落ち込むが、第2世代 Pixel Eyes™、DCI(広色域)対応機種等、新技術の製品投入等が、4Q15以降の受注挽回及び新規顧客獲得に寄与する見込み
- Pixel Eyes™：売上高比率は2Q15に初の80%越え。3Q15は一時的に低下するが、受注挽回により4Q15は再び上向く見通し

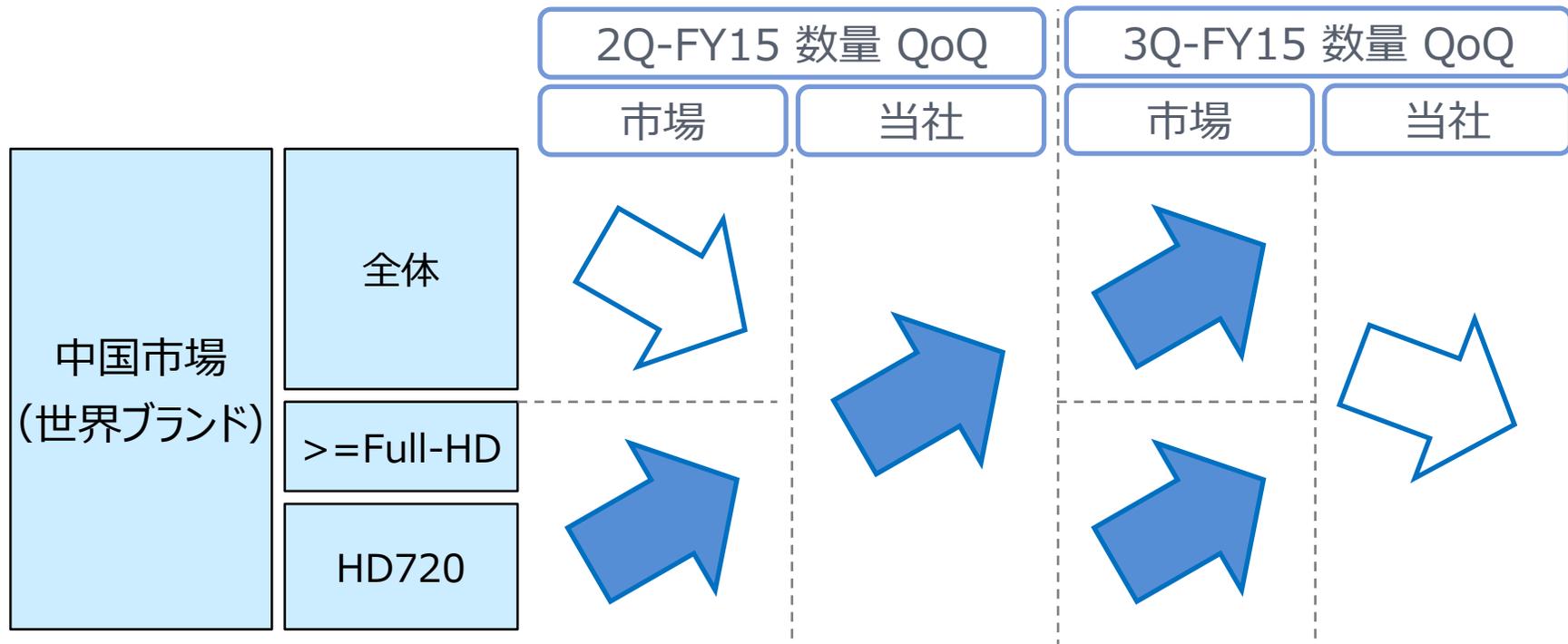
解像度・顧客地域別 売上高・需要状況

		2Q-FY15 売上高実績		3Q-FY15 売上 QoQ 見込み	4Q-FY15 売上 QoQ 見込み
		対想定	QoQ 対実績		
WQHD	中国・アジア				
Full-HD					
	最大顧客				
HD720	中国・アジア				
Pixel Eyes™					

中国市場におけるスマートフォン向けディスプレイ数量動向（当社推定）

中国市場向けスマートフォン需要は、HD720以上の数量は増加傾向が継続している。
2Q-FY15は当社の出荷数量も増加した。3Q-FY15は競争環境激化で当社の中国顧客向け出荷数量が減少の見込み

スマートフォン向けディスプレイの市場価格は10%/Q程度で減少しているが、当社の出荷製品はインセルタッチパネル搭載比率が増しており、製品ミックス良化により平均価格を維持している

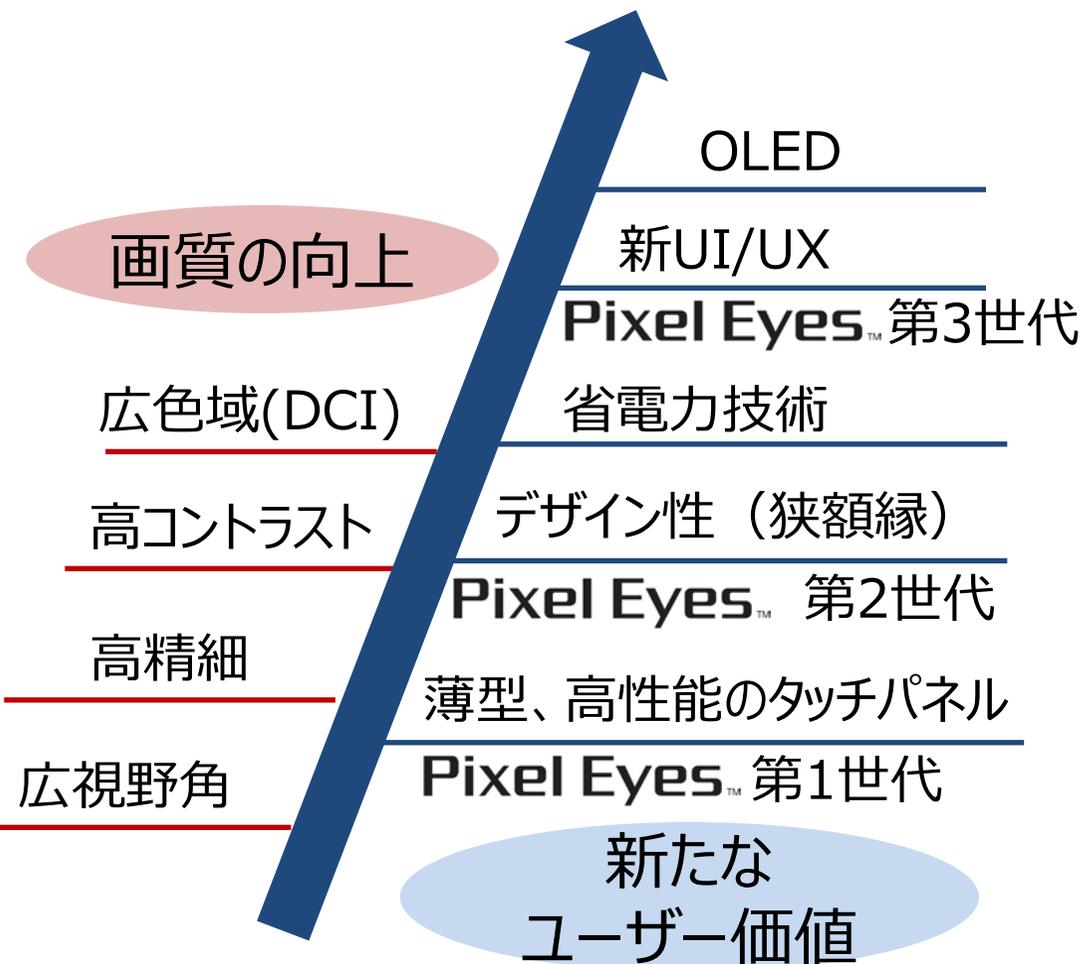


スマートフォン市場変動に対する当社の対応

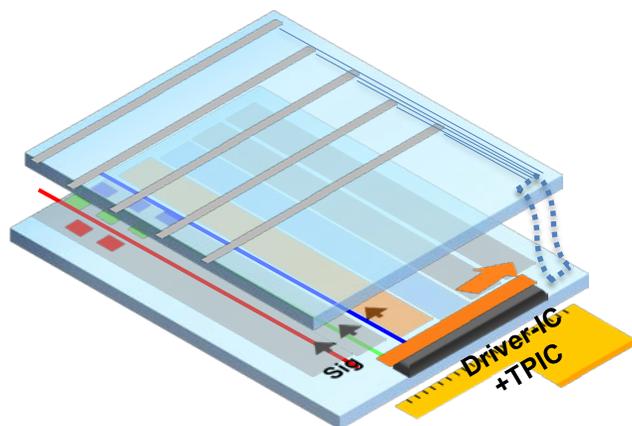
- **全社年間売上高1兆円超え**を目指す
- スマートフォン市場変動に耐える体質へ変革し、損益分岐稼働率を4Q-FY15にYoYで**25%改善**。経営改革による限界利益率改善幅は、対1Q-FY15比で3%改善(2Q)→ 6%改善(4Q)
 - ✓ サプライヤ様との協業による調達コストの低減
 - ✓ 生産歩留向上と生産ロスの最小化
 - ✓ あらゆるオペレーションの合理化、効率化
 - ✓ 在庫回転日数低減
- **第2世代Pixel Eyes™**の出荷を3Q中に開始。高いPixel Eyes™比率により市場価格下落の影響を受けにくい体質を維持する

競争優位性の維持・確立

ユーザー価値向上のための新技術
を早期に市場投入



Pixel Eyes™ 第2世代



- ✓ 狭額縁
- ✓ Real Black
- ✓ Water Tracking
- ✓ 高精細スタイラス
- ✓ 3Dセンシング

経営改革の進捗

代表取締役会長 兼 CEO
本間 充

企業価値向上に向けた経営改革の断行

売上高
1兆円超え

損益分岐点引き下げ

原価低減
ロスコスト削減
中国オペレーション改革

ユーザー価値
向上のための
技術開発

キャッシュフロー健全化

リードタイム短縮
在庫削減
売掛債権回収の短期化

意識改革

責任所在の明確化
計画遵守の執念
無理・無駄の排斥
危機意識の醸成
CRM

世界最大の
LTPS-LCD
生産能力

事業責任
機能責任

損益分岐点引き下げ

原価低減
ロスコスト削減
中国オペレーション改革

✓ 損益分岐稼働率を4Q-FY15にYoYで25%改善

経営改革による限界利益率改善幅 (対1Q-FY15)

3%改善(2Q) → 6%改善(4Q)

経営改革による生産歩留ロスの売上高比率改善幅 (対1Q-FY15)

2%改善(2Q) → 3%改善(4Q)

✓ 中国物流倉庫の集約

華南地区は12月から2月にかけて7拠点を1拠点へ集約

華東地区は3月末までに6拠点を2拠点へ集約予定

キャッシュフロー健全化

リードタイム短縮
在庫削減
売掛債権回収の短期化

- ✓ 棚卸資産在庫回転日数(DOS)を **FY15末に29日**へ
- ✓ 損益分岐稼働率改善、DOS改善、売掛債権回収の短期化により、**下期中にFCFをプラス**へ

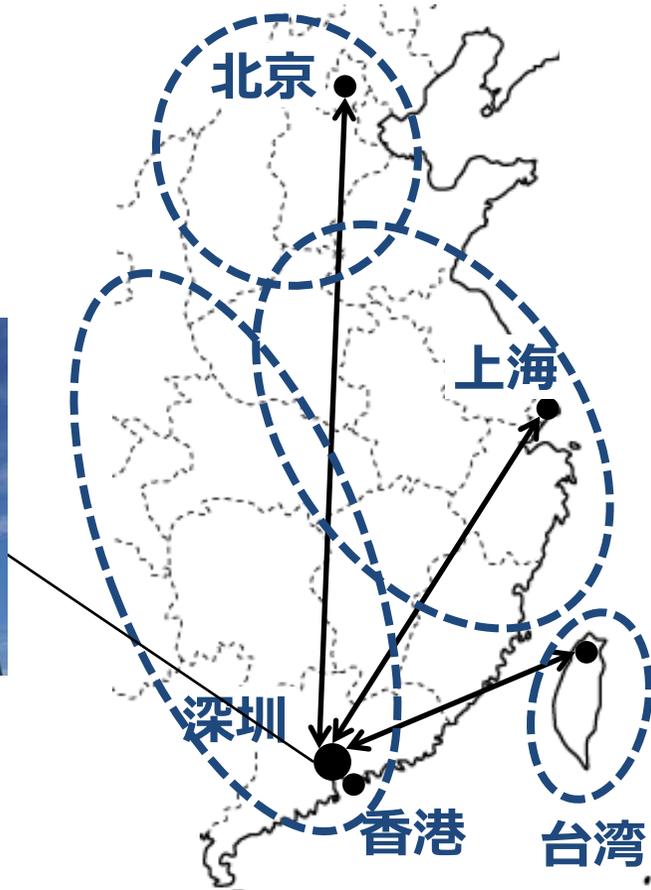
意識改革

責任所在の明確化
計画遵守の執念
無理・無駄の排斥
危機意識の醸成
CRM

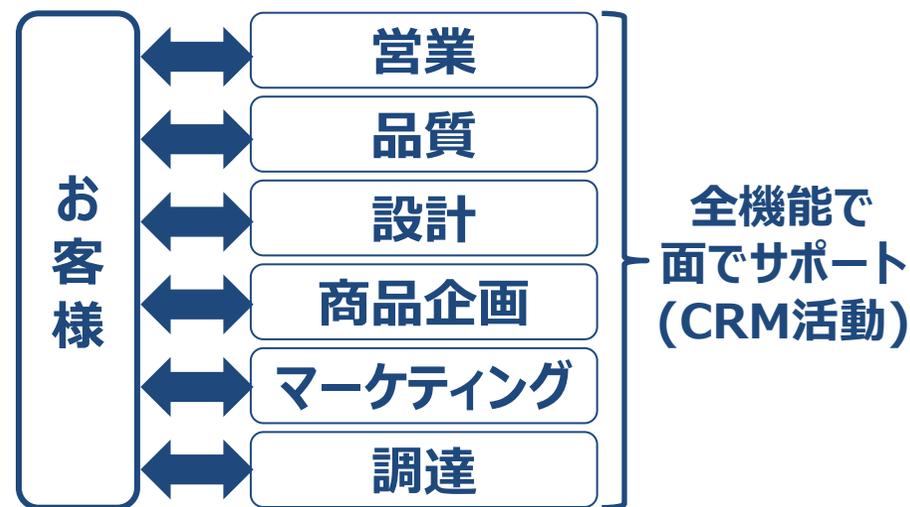
- ✓ 10月1日付で組織改革。**事業責任明確化・事業計画遵守の徹底**
- ✓ **経営理念の制定**
- ✓ 中国事業開発センター設置し、11月2日より業務開始。**全組織階層**でお客様へ対応(**CRM活動**)

中国オペレーション改革（中国事業開発センター設置）

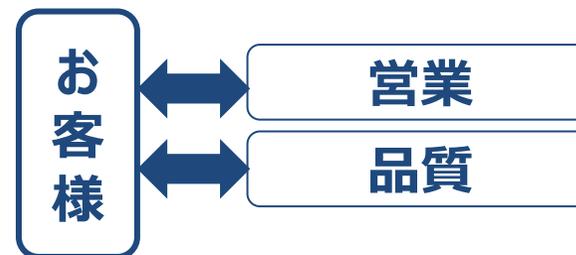
中国、台湾のお客様を全機能でサポートするために、当社子会社のJDI China Inc.は中国広東省深圳市に**中国事業開発センター**を開設し、11月2日より業務を開始いたしました。北京、上海、台湾の当社拠点が担当するお客様の製品開発も取り扱い、中国、台湾、新興国向けODMなど全てのお客様をサポートいたします。Taiwan Display Inc.は台湾における販売会社機能に特化し、設計、品質保証等の機能はJDIおよび中国事業開発センターへ集約いたしました。



中国事業開発センター



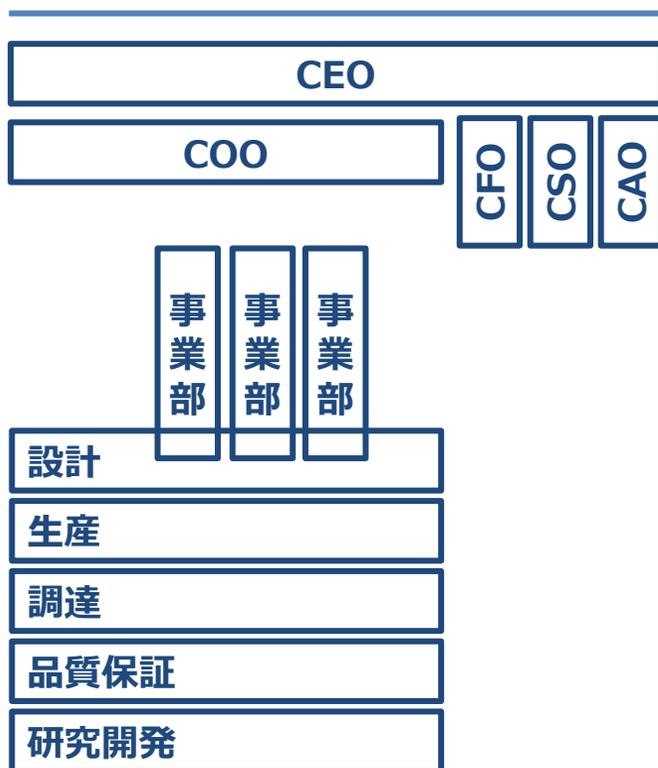
従来



組織改革

10月1日付で組織体制改革を実施。**事業本部の損益責任と権限を明確化。**
事業ごとに**自主経営責任**を持って事業を推進し、**事業計画を遵守**する体制へ変革した。

旧体制



新体制



経営理念

世界の人々に、最先端技術を通して美と感動を届け、豊かな社会の実現に貢献します。

スローガン

Live Interfaceで新たな価値を産み出そう

行動規範 (Standards)

1. 創造 : 創造することのプロであらう
2. 挑戦 : 変化に果敢に挑戦しよう
3. 責任 : 責任と執念をもってやり貫こう
4. 迅速 : スピードを極めよう
5. 顧客主義 : お客さまと共想し、共創しよう
6. 公正 : 風通しよく、フェアにいこう
7. 共生 : 地球環境と社会に貢献しよう



将来予測及び見通しに関して

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性および網羅性について保証するものではありません。

また、本資料に記載される当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断又は考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外の個人消費その他の経済情勢、為替動向、スマートフォンその他の電子機器の市場動向、主要取引先の経営方針、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。